

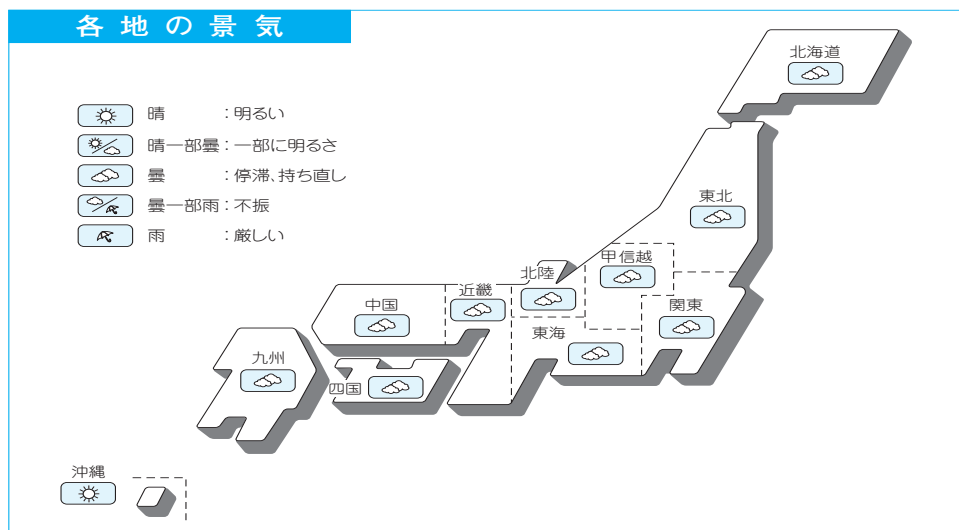
全国地方銀行協会

地方経済天気図

(平成26年4月発表分) から

緩やかな回復

1. 各地の景況感



- ☁ • 北海道、九州…輸送機械は輸出の増加に伴い生産水準が上昇。化学製品の輸出が持ち直し。
- ☁ • 東北…公共工事は増勢鈍化。輸出は鉄鋼、米国・中国向けの輸送機械が好調。
- ☁ • 関東、甲信越…電気機械の生産、有機化合物の輸出が増加。
- ☁ • 北陸、四国…個人消費（消費税率引き上げ前）は高額商品、自動車販売が好調。設備投資は製造業、非製造業ともに投資計画を積み増す動き。
- ☁ • 東海、近畿、中国…消費税率引き上げ前は駆け込み需要から百貨店販売で高額商品が増加、乗用車販売も好調。雇用は新規求人数、所定外労働時間が増加。
- ☀ • 沖縄…スーパー販売、乗用車販売、家電品販売が好調。住宅建築は、持家、貸家が増加。観光も国内客、外国人客ともに増加し、好調。

2. 近県「現在の景況感」

「宮城県」

全体として景況は、震災復旧需要などに伴い経済活動は総じて高水準で推移しており、緩やかに回復している。

「山形県」

着実な持ち直しの動きとなっているものの、先行きについては増勢鈍化の兆し。

「新潟県」

緩やかに回復している。

「栃木県」

緩やかに回復している。

「茨城県」

県内経済は、持ち直している。

3. トピックス（東北・近県）

「青森県」

国土交通省が3月18日に発表した公示地価によると、青森県の全用途平均変動率は4.1%減で、全国ワースト3位の45位となった。また、地価公示の青森県代表幹事を務める不動産鑑定士は、人口減少による土地需要の低下が価格下落の主因と分析しており、当面プラスに転じる見込みはないとの見方を示した。

「岩手県」

NHK 連続テレビ小説「あまちゃん」の舞台となった三陸鉄道は震災から3年ぶりに北リアス線・南リアス線の全線が4月6日に開通した。全線開通により平成26年度乗客数は、前年度から33万人以上増加の83万人を目指しているが、ブームは一過性となりがちであり、復興の起爆剤としてブームの知名度を活かしつつ、「復興応援ツーリズム」などによる観光面のほか、生活の足として鉄道を守るという初心に立ち返り、住民と行政が一体となった地域の活性化が期待される。

「秋田県」

3月27日、東北電力は、能代市大森山の能代火力発電所内に新たに3号機（出力60万キロワット）を建設する計画を経済産業省に届け出た。早ければ2016年度に着工し、20年度の運転開始を目指す。3号機は開発計画が立てられた1981年から事実上凍結されていたが、30年以上を経てようやく動き出す。能代火力発電所は、石炭が燃料の発電所で、1号機は93年、2号機は94年にそれぞれ運転を開始。出力はいずれも60万キロワット。

「宮城県」

仙台市は、平成27年3月に開催される国連防災世界会議のメイン会場となる新展示施設の建設に着

手した。総事業費は約25億3,000万円、同施設は5,000～6,000人程度の収容が可能であり、近隣の東北大学の施設も合わせると、一帯で約1万人規模の会議開催が可能となる。同施設は仙台市青葉区の県スポーツセンター跡地に建設され、12月に完成する。

「山形県」

経済産業省が発表した、平成25年（1月～12月）の工場立地動向調査によると、県内の工場立地件数は22件となり、東北では4位、全国では33位となった。前年の9件に比べると倍増しているが、太陽光発電などの電気業が半数の11件を占め、その他は食料品が3件、金属製品と電気機械がそれぞれ2件などとなった。

「新潟県」

3月15、16日の両日、「にいがた酒の陣」が新潟市の朱鷺メッセで開かれ、過去2番目に多い計9万9,825人が入場した。回数を重ねる中で県外客や女性客が増加し、県産日本酒のイメージアップに大きく貢献。県産日本酒の国内出荷量が平成24年に16年ぶりに増加に転じ、平成25年も増加が続く下地になった。会期中は周辺のホテルや飲食店にもにぎわいが広がった。

「栃木県」

3月10日、県と足利銀行、野村証券で構成する「食と農」企業支援プロジェクト推進協議会は、研究・開発成果の報告会を宇都宮市内で開催。企業関係者など82人が参加。大麦工房ロア（足利市）、北研（壬生町）、滝沢ハム（栃木市）、カクヤス商販（矢板市）、抗菌研究所（那須塩原市）の5社が取り組みを発表。

（出所：全国地方銀行協会地方経済天気図4月分より抜粋）

（担当：斎藤）